



# ぐんま集排だより



毛里田北地区処理施設全景(J-11型)

## 処理施設を訪ねて

太田市毛里田北地区農業集落排水組合長 中山 孝

毛里田北地区について教えてください。

毛里田北地区は、市役所から北へ約10kmのところに位置し、一級河川渡良瀬川右岸に形成された平坦地で標高54m、62mで河川に沿って緩やかに傾斜している地域です。また、処理区内のほ場整備も完了し、基幹作物である水稲、麦作を中心に意欲的な営農を進めており、土地の有効利用を目指しております。

本地区は、原宿町の一集落からなり、昔から地縁的つながりがあり、地域の各種行事、自治会、消防団、婦人会等もまとまりをもって活動しており、日常生活面からも一体となった一つの集落社会を形成している地域です。

事業への取り組みについて教えてください。

毛里田北地区は農業集落排水事業として、平成5年度に採択を受け、計画戸数二九九戸、計画人口一、〇九〇人、日平均汚水量二九四立方メートルで計画し、総事業費二〇億円をもって整備しました。処理方式は、回分式(JARUS-IX)を採用し、建物については住宅地に近いため、周辺に配慮した鉄筋コンクリート瓦葺とし、汚水処理場というイメージを払拭することにいたしました。

今後の課題等についてお聞かせ下さい。

太田市の農業集落排水事業については、12地区を計画し、今年度末1地区が新たに供用開始予定であり、現在2地区が稼働しております。毛里田北地区は本市2番目の地区として、平成8年11月に供用開始されましたが、市内先進地として供用率の向上に努め、適切な管理を行っていきたいと思います。また、現在地域の住民が、処理施設周辺の植栽等の管理を行っています。地域の施設として大切に利用していきたいと考えております。

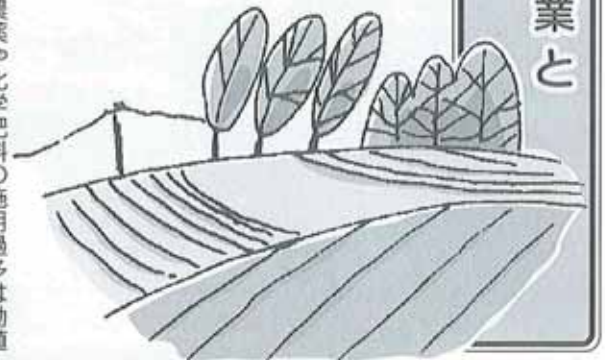


太田東地区処理施設全景(J-11型)



# 農業集落排水事業と土づくり

「土を大切にしない農業は減じる」といふことを聞いたことがあります。日本の農家は古くから自給肥料として人ふん尿、作物残さや草木灰そして堆肥を施用し土壌の肥沃性の維持を図ってきました。しかし、農業労力の不足、農業機械の普及に伴う農作業の省力化、化学肥料の普及等農業環境の変化により次第に化学肥料への依存度が増し、堆肥等の施用は激減しています。こうした科学肥料偏重は地力の低下を招き、土壌の有用微生物を減少させるなど作物栽培へ悪影響を及ぼすようになりました。土壌有用微生物の減少は様々な病害虫発生の原因になり、そしてこれを抑えるため農薬が多投入されるようになりました。



農業や化学肥料の施用過多は動植物の生息空間を狭め農村の自然環境を悪化させるばかりでなく将来にわたる農業生産の継続に少なからぬ影響を与えています。堆肥は肥料成分に加えて有機質による土壌の団粒化や有用微生物の繁殖に有効であるとされています。農業集落排水(以下農集排)処理施設から発生する汚泥は有機質堆肥としての利活用が可能です。平成11年度に実施した農集排処理施設の維持管理に関する調査によると対象47地区(処理施設)のうち農地還元している地区は16地区で34%(下表参照)に止まっています。これは農集排汚泥の利活用がまだ十分に地域の理解を得られていないことと現在の農家経営のあり方等に起因しています。

農集排事業の目的は、農村地域の生活環境の改善と地域農業の活性化にあります。農集排事業の実施だけでは事業目的の半分が達成されたに過ぎません。農集排発生汚泥の利活用による、よりよい農村環境の形成に向け、努力する必要がありますかと思われまます。このためには、地域の皆さまと農集排発生汚泥を堆肥化するための施設整備のあり方や農地還元するための方法等利活用方法について話し合うことが不可欠です。

## 農集排汚泥処理状況 (平成12年1月)

処理方法	施設数	割合(%)
農地還元		
農地還元(乾燥)	7	15
液肥	1	2
堆肥センター	8	17
小計	16	34
焼却(溶融)	6	13
し尿処理場	25	53
計	47	100

元等利用促進も大きな課題になっています。農村地域の環境を将来にわたって保全していくため畜産排せつ物の利用促進を考慮しながら農集排処理施設を核とした地域農業の進む方向を考えてみたいと思います。



## 富士見村で「リサイクル体験会」開催される

頼れる農業集落排水技術の相談役として事業推進に取り組んでいる(社)日本農業集落排水協会では、平成12年11月23日に富士見村の協力で「リサイクル体験会」を開催しました。

この催しは、地元の小学生及び父兄を対象に農業集落排水施設の果たす役割と必要性を実施の見学を通じて理解してもらうとともに、処理施設からの乾燥汚泥を利用して栽培した農作物(里芋)を実際に収穫したり、試食してもらうことでリサイクルを身近に感じてもらおうことを目的として開催されました。



乾燥汚泥で栽培した里芋の掘り起こし

農業集落排水汚泥の農地施用実験圃場

<実験圃場配置>

I	H	G
乾燥汚泥	乾燥汚泥	乾燥汚泥
F	E	D
乾燥汚泥	乾燥汚泥	乾燥汚泥
C	B	A
乾燥汚泥	乾燥汚泥	乾燥汚泥

実験圃場: 静岡県農業集落排水協会  
 実験地: 富士見村 農集排  
 実験作物: 里芋  
 実験期間: 平成12年11月23日  
 連絡先: 0543-2427-0231

農業集落排水汚泥の農地施用実験圃場説明看板



# 維持管理など学ぶ

伊香保で県農業集落排水事業連絡協議会



れ講演。谷山主任は施設の維持管理体制の役割分担や関係法令について解説し「受益者である集落住民と関係者を含んだ組織系統、連絡体制を構築するとともに、計画的な維持管理によって施設能力の継続的な確保が必要」と話した。二日目の十九日は維持管理体制と作業分担をテーマに分科会を行う。

県農業集落排水事業連絡協議会（石原修治会長）の研修会と第十回総会が十八日、二日間の日程で伊香保町のホテルで始まり、初日は二人の講演者による研修会と通常総会が行われた。県内では事業計画を含め、三十三市町村の九十九地区で農業排水事業が行われている。同協議会は各地区の事業推進組織の連絡協議会で、研修会・総会には三十三市町村

集排施設の維持管理などについて講演が行われた研修会

の所属組織代表と市町村担当者ら合わせて七十一人が参加した。

研修会では農業技術課の中島三郎主幹が「肥料取締法の一部改正について」、日本農業集落排水協会の谷山俊一主任が「集排施設の維持管理と支援対策について」それぞれ

平成12年5月18日に伊香保で開催された本協議会の研修会及び第10回通常総会の状況が、5月19日付の上毛新聞に掲載されました!

## 集排事業に携わって

新田町 金谷 均

それまでは農業集落排水事業というものを殆ど気にも留めず、親が負担金を払っていました。

私は家を新築して7年程経過し、汚水処理は合併浄化槽で対処していました。単独槽に比べれば遙かに処理水はきれいになっていいると思います。管理は業者に委託していましたが、それでも結構トラブルはあり、プロワーカーは2回壊れ、バクテリアが死滅したこともあり、自分でも時々浄化槽の中を点検する必要があると思いました。更に年に一度はスカムの汲み取りもしなければならず、維持費は結構かかっていました。

そんな折、人事異動（新田町役場）で農業集落排水事業の担当になりました。その時既に私の住んでい



る市野井・市地区は平成7年に供用開始されており、供用開始後3年以内につきなご込みをしなければならぬ状況でした。使用していた浄化槽は経過年数が少なく、少しもつたいのないような気もしましたが、担当になったことを機に平成9年に配管工事を行いました。近所の家もほぼつなぎ込みは終わっており、工事をしてから家庭からの排水はなくなり、側溝はきれいになりました。また、蚊の発生も少なくなり、臭いもなく環境が改善されました。煩わしい浄化槽の管理も不要になり、手間も省けました。

ただ、そのまま雑排水を流せるとはいっても、私の家ではできるだけ油分を少なくするような努力はしています。

多少配管工事に金もかかりましたが、集落排水にして良かったと思っています。

私たちの地域だけではないから頑張っても、きれいにはなりません。公共下水道の推進が困難と思われる地域こそ団結し、事業推進を図り対処することが望ましいと思います。

住み良い環境は、地域ぐるみで住みやすい環境をつくることではないでしょうか。

## 住みやすい環境を

館林市 服部良恵

私達の住む、館林市下早川田町は、市の北部にあり、東武佐野線および、県道佐野野行田線が平行して走っております。また、北側には渡良瀬川が流れており、群馬県と栃木県の県境に位置する田園地帯の集落です。

五年計画ではじまりました集落排水事業も、使用開始されるはこびとなりました。現在は開始早々なので供用推進事業を進めております。

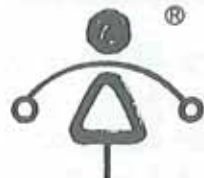
私達の幼年期には、水田の流水も透き通る程きれいだったので、ここ数年、生活水準向上のため各家庭から出る汚水の増加により、すこぶる悪化をたどっているのが現状です。この環境を打破するには集落排水事業の外ありません。トイ

■発行者  
群馬県農業集落排水事業連絡協議会  
■事務局  
群馬県土地改良事業団体連合会  
〒371-0837 前橋市箱田町350番地  
TEL.027-251-4105  
■編集人  
石原修治  
■印刷  
(株)アルファ一企画

平成11年度 事業報告 (平成11年4月～平成12年3月)

平成11年	4月	・監事会及び監査
	5月	・代表幹事会及び役員会
	6月	・研修会及び第9回通常総会
	9月	・農業集落排水事業研究会参加 ・機関紙「くま集排だより」(第4号)編集委員会 ・全国農業集落排水事業推進協議会第9回通常総会参加
	11月	・現地研修会(新潟県広神村、新潟県栄町)
	12月	・機関紙「くま集排だより」(第4号)37,000部発行
平成12年	1月	・維持管理に関するアンケート調査実施

シンボルマークは、平成11年4月16日に商標サービスマークとして正式に登録されました。



夢くらまそう・未来はくもく  
くまの農業農村整備



# 絵画コンクール

## 推薦作品紹介

全国農業集落排水事業推進協議会が実施した絵画コンクール(小学生対象)に、県内から47作品の応募があり、このうち4作品を本会からの推薦作品としましたので紹介いたします。

伊勢崎市立殖蓮小学校3年 加賀 奈保子ちゃん



テーマ きれいな川で水あそび 魚のすめるすきとおった水であそべる川とても楽しい川をイメージして描きました

富士見村立石井小学校4年 木暮 真哉くん



テーマ 水がきれいになった川で子どもが、カニやヤゴをつかまえているところ

伊勢崎市立殖蓮小学校3年 川端 剛広くん



テーマ 近くのきれいな川で、ザリガニをみつけてうれしかったこと

富士見村立石井小学校4年 小林 久恵ちゃん



テーマ 川の生き物をかいたり、きれいでみんなが遊べるような川

## 家庭での心かけ

農業集落排水処理施設は自然ときれいな水、快適な生活環境をつくるみんなの財産です。大切に使いましょう。また、家庭でのちょっとした心かけで、きれいな川を守る手助けができます。

- ◆ 洗剤を利用するときは無リン洗剤を使う
- ◆ 台所の調理くず・てんぷら油等は流さないようにする
- ◆ 水洗トイレには溶ける紙を使用する
- ◆ 風呂場や洗面所の排水口に髪の毛、糸くず等を流さない



「私一人くらいが…」、こう思う人が出始めますと、自然環境が破壊されることに繋がります。緑の美しいふるさとが無惨な姿をさらけ出すことになりかねません。自分で使ったものは、責任を持って処理をする心を育てることが、今後とも美しい環境を残すために大切なことです。一番基本である水を大切にする、それは将来にわたって生物の生き残れる環境保持に最も必要なことです。万物の長といわれる人間の賢さを、今こそ発揮したいものです。

群馬県農業技術課専門技術員 竹上千恵子